



「自分の頭で考えて行動する集団にしたい」と語る、石川代表（左）と高村工場長（右）。技術者として自力をつけて「ものづくり」に挑める環境が自然とできあがっています。

品をつくり、技術力を高めてきました。また、製品づくりに重要なのは、長い年月をかけて築きあげた材料の調達・熱処理・表面処理の協力メーカー様とのネットワークです。秋田工場の高村孝栄工場長は「製造ラインが止まると大きな損害になりますから」、「気がつくと一心不乱で問題解決しようとしているんです」と言います。

技術を伝承したい

この言葉から、技術者としての誇りと自信を感じ、心から仕事を楽しんでいることが伝わってきます。『ワクワク感』を持ち毎日仕事に取り組めるのは本当に幸せなことです。だと思いません。結果として、組み方から鍛錬し生まれた「技術力」が当社の強みとなっているのです。

小さなメーカーになりたい

「日本は、やっぱりものをつくっていかなきや」と石川代表は言います。「当社は技術の伝承を目指している」、「学びたい人には戸を開けて自由にやつてもらっている」とも。

社員教育や人材育成に力を入れ、個々に適したキャリアプランを作成する環境を積極的に提供し、その実現のためさまざまな取り組みをしています。

例えれば、外部のアドバイザーに依頼し、新しい技術を習得する場を提供しています。

将来的には、売上の30%を占めることを一つの目標として、「自社製品をつくっていきたい」と石川



現在は機械加工だけでなく、設計から納品までの一括受注、その後のメンテナンスまでを行い、国内でのビジネスチャンスを獲得しています。

例えば、外部のアドバイザーに依頼し、新しい技術を習得する場を提供しています。

将来的には、売上の30%を占めることを一つの目標として、「自社

製品をつくっていきたい」と石川

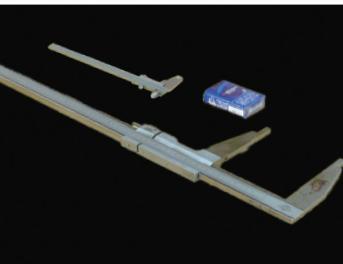


株式会社協和精密工業
東京都町田市常盤町 3245
TEL 042-797-0717 FAX 042-797-5477
<http://www.kyowa-precision.co.jp/>



株式会社協和精密工業

技術を売る会社を目指す



取材・文 小出 有紀

起業の原動力

創業は昭和39年、東京オリンピックの年でした。石川光男代表取締役が会社員當時、晴海の見本市で見た溶接技術をヒントに、ノギス（長さ百分の五ミリメートル単位で測定可能な精密工具）の新しい製造方法を提案しました。見本市の見学者は会社から許可されず、ストライキをして見学に向かってそろです。内緒で試作品を作りましたが、会社に取り合つてもらえず、悔しい思いをしたそうです。

「この製造ライン変な音がする」「もっと使いやすくしたい」という個別の要求や「ボロボロになつた製品をまた使えるようにして欲しい」という依頼もあります。他社でできないことや難しい要望に対しても、技術者は試行錯誤して製

「変な画面がたくさんますが、ワクワクするんですよ！」と石川代表は言います。

「学びたい気持ちがあつてもチャレンジをもらえない環境。一方で、もっと技術を磨き、視野を広めたい。何より『学びたい気持ち』を満たしたい。石川代表は11年勤めた会社を辞め、27歳の時に同僚3人と主流の創業当時から、ひたむきに“機械加工の便利屋”を貫いてきました。他社で解決できない難易度の高い設計・多様な顧客のニーズに対し、高品質かつ短納期で対応し、信頼と実績を積んできました。

ワクワクする仕事

「もっと使いやすくしたい」という個別の要求や「ボロボロになつた製品をまた使えるようにして欲しい」という依頼もあります。他社でできないことや難しい要望に対しても、技術者は試行錯誤して製

「学びたい気持ちがあつてもチャレンジをもらえない環境。一方で、もっと技術を磨き、視野を広めたい。何より『学びたい気持ち』を満たしたい。石川代表は11年勤めた会社を辞め、27歳の時に同僚3人と主流の創業当時から、ひたむきに“機械加工の便利屋”を貫いてきました。他社で解決できない難易度の高い設計・多様な顧客のニーズに対し、高品質かつ短納期で対応し、信頼と実績を積んできました。